

製品名: KIR2.3 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13027**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	50kDa

抗原情報

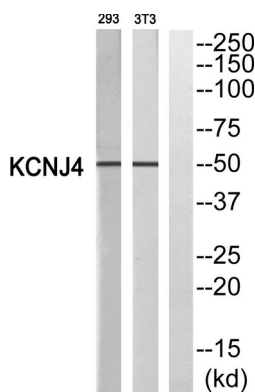
遺伝子名	KCNJ4
別名	KCNJ4; IRK3; Inward rectifier potassium channel 4; HIRK2; HRK1; Hippocampal inward rectifier; HIR; Inward rectifier K(+) channel Kir2.3; IRK-3; Potassium channel; inwardly rectifying subfamily J member 4
遺伝子 ID	3761.0
SwissProt ID	P48050
免疫原	抗血清はヒト KCNJ4 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 251-300

背景

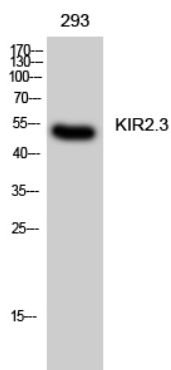
神経系における電気シグナル伝達には、いくつかの異なるカリウムチャンネルが関与することが知られています。あるクラスは脱分極によって活性化されますが、別のクラスは活性化されません。後者は内向き整流性 K⁺チャンネルと呼ばれ、カリウムを細胞外に流すよりも細胞内に流す傾向が強いです。カリウムイオン伝導のこの非対称性は、筋細胞やニューロンの興奮性において重要な役割を果たします。この遺伝子によってコードされるタンパク質は膜貫通タンパク質であり、内向き整流性カリウムチャンネルファミリーのメンバーです。コードされるタンパク質は、このタンパク質ファミリーの他のメンバーと比較して、単位伝導度が小さいです。この遺伝子には、同じタンパク質をコードする2つの転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2008年7月], domain:Val/Gly/Ala/Pro 配列は、伝導特性または透過特性において機能的な役割を果たしている可能性があります。function:この受容体は G タンパク質によって制御されます。内向き整流性カリウムチャンネルは、カリウムを細胞外に流すよりも細胞内に流す傾向が強いです。これらの電圧依存性は細胞外カリウム濃度によって制御され、細胞外カリウム濃度が上昇すると、チャンネル開口の電圧範囲はより正の電圧へとシフトします。内向き整流は主に、細胞内のマグネシウムによる外向き電流の遮断によって生じます。細胞外バリウムおよびセシウムによって遮断される可能性があります。類似性: 内向き整流型カリウムチャンネルファミリーに属します。サブユニット: Kir2.1 とのホモマルチマーおよびヘテロマルチマー結合により、G タンパク質誘導性電流が増強されます。PDZ 認識ドメインを介して LIN7A、LIN7B、LIN7C、DLG1、CASK、および APBA1 と結合し、その局在および輸送に重要な役割を果たします。組織特異性: 心臓、骨格筋、および海馬を含むいくつかの異なる脳領域。

研究分野

画像データ



KCNJ4 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンが KCNJ4 ペプチドでブロッキングされている。



KIR2.3 ポリクローナル抗体を用いた 293 細胞のウェスタンブロット解析

